
【10月11日】ラトビアの歌を歌う会 秋の第1回は「ラトビア国歌」を歌

(2017/10/10 火曜日 22:20:57 JST) - 投稿者 webmaster - 最終更新日 (2017/10/13 金曜日 10:35:44 JST)

ら

?



??? 第7回ラトビアの歌を歌う会? (次回は10月19日開催(詳細はこのページの最後部分をご覧ください)。? 好評の「ラトビアの歌を謳う会」第2期初回(通算7回目)は9月28日にラトビア大使館で行われ、ラトビア国家[「Dievs, sv?t? Latviju!」を歌いました。? 佐藤拓指揮者は周到な解説リーフレットを準備し、極めて新鮮で感動的な解説を行って素晴らしい午後になりました。さらにこの日は新大使館員のエリーナさんが、得意のクアクレを演奏しその美しい音色に酔いしれました。リズムカルな踊りの曲では全員が楽しくステップを踏みました。佐藤指揮者もこの楽器を手にして大変興味を持ったようです。写真はクリスティーナ会員の撮影です。? 【佐藤指揮者による解説の文書部分】? ラトヴィア共和国国歌『Dievs, sv?t? Latviju!』 「神よ、ラトヴィアに祝福を」と高らかに歌い上げるこの国歌の歴史は古く、ロシア帝国領時代の1873年にパウマヌ・カールリス(Bauma? u K? rliis, 1835~1905)によって作詞作曲されました。パウマヌは「若いラトヴィア」と呼ばれる民族主義運動にも参加する愛国者で、この曲は歌の中で「ラトヴィア」という言葉を用いた最初のものと言われています。作曲と同年に開かれた第1回のラトヴィア歌と踊りの祭典で歌われ、一気にラトヴィア人の間に広がりました。独立後の1920年、議会でこの曲を国歌とすることが正式に決定しました。? しかしソ連による併合の時代(1940~1990)、あまりに愛国的なこの曲を歌うことは固く禁じられます。歌が民族の結束を強め、大きな力となることを知っていたスターリンは、ソヴィエト色の強い新しい国歌を制定し、それを歌うことをラトヴィア人に強いました。? ソ連が崩壊し、ラトヴィアが再度の独立を勝ち取ったのち、1991年2月15日に改めて国歌に制定され現在に至っています。? 掲載予定の画像3点(佐藤指揮者提供分)、画像の性質上掲載不可でした。ご免下さい。(編集室)(写真)リガのNiesturd?rzs 公園にある国歌のモニュメント? 文中の楽譜はパウマヌ直筆のもの? Dievs, sv?t? Latviju, ? M?s' d?rgo t?viju, ? Sv?t? jel Latviju, ? Ak, sv?t? jel to! ? Kur latvju meitas zied,? Kur latvju d?li dzied, ? Laid mums tur laim? diet, ? M?s' Latvij?! ? 神よ、ラトヴィアに祝福を! ? 我らの愛する祖国? ラトヴィアを讃え? ああ、なおも讃えたまえ!? ラトヴィアの娘たちが花咲き? ラトヴィアの息子たちが歌う所? 我らを幸せに踊らしめよ? 我らのラトヴィアで!?? 「10月のラトビアの歌を歌う会ご案内」? 日時 10月19日(木)12時30分~14時場所 ラトビア共和国大使館(渋谷区神山町37-11)? 曲目 「頭を上げてください、お母さん」ライモンズ・パウルス曲指揮 佐藤拓 ピアノ 坂本雅子? 会費 2000円? 連絡先 日本ラトヴィア音楽協会 加藤民子 (tami-piko@jcom.zaq.ne.jp) ?